

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 22 日現在

機関番号：14301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2015～2016

課題番号：15H06296

研究課題名(和文)20世紀東南アジア大陸部の河川・海域世界 メコンデルタから越境する生存ルート

研究課題名(英文)A History of the River Basin and Seashore in Mainland Southeast Asia in the 20th Century: Subsistence Routes Border-Crossing from the Mekong Delta

研究代表者

下條 尚志(Shimojo, Hisashi)

京都大学・東南アジア地域研究研究所・研究員

研究者番号：50762267

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,100,000円

研究成果の概要(和文)：雑誌論文「脱植民地化過程のメコンデルタにおけるクメール人の言語・仏教・帰属」『アジア・アフリカ地域研究』、また単著『戦争と難民 メコンデルタ多民族社会のオーラル・ヒストリー』を刊行した。また、台湾で行われた東南アジア学会(2016 Annual Conference on Southeast Asian Studies in Taiwan, 2016年9月22日、23日)において、最優秀論文賞を獲得した。さらに、東南アジア研究所主催のゾミア研究会の企画・運営に携わり、国内外の研究者を招聘して計12回の研究会(うち国際ワークショップは4回)を開催した。

研究成果の概要(英文)：I published an article, "Language, Buddhism, and Belonging during Colonization: The Khmers of the Mekong Delta," and a book, "War and Refugee: Oral Histories in A Multi-Ethnic Society of the Mekong Delta". Also, I got a Best Paper Award at 2016 Annual Conference of Southeast Asian Studies in Taiwan on 22th September 2016. Furthermore, I engaged in planning and managing "Zomia Study Group" organized by the Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, and I held total 12 workshops (including 4 international workshops).

研究分野：地域研究、社会史、政治史

キーワード：東南アジア大陸部 河川 海域 国境 越境

1. 研究開始当初の背景

河川や海域という空間は、激動の 20 世紀、長期的な動乱によって常に死と隣り合わせにいた人々の逃げ場になってきたのではない。20 世紀、東南アジア大陸部に位置するベトナム、カンボジアの人々は、インドシナ戦争、ベトナム戦争、社会主義国家間の戦争を経験した。この動乱について先行研究で注目されてきたのは、ナショナリズム、革命、冷戦といった現象であった。一方で、動乱による死のリスクから逃れようとしてきた生活困窮者や難民、逃亡者、徴兵忌避者や脱走兵が、生き残るために取っていた行動は不問にされてきた。

2. 研究の目的

本研究は、こうした行動を繰り返してきた人々が、いかなる人間関係に頼り生き残りを図っていたのか、東南アジア大陸部各国をつなぐメコン河流域とシャム湾沿岸部という空間に着目し、解明するものである。この解明を通じ、近代国民国家が膨張した 20 世紀でも、動乱期には、国家体制を崩す政治権力の空白地帯が各地に拡がり、人々の生存ルートが生成されていったことを実証する。

3. 研究の方法

ベトナム語、クメール語によるインタビュー調査を中心に、地理・環境調査、文献史料や衛星写真を用いた調査も行う。具体的には、申請者がこれまで調査してきたベトナム領メコンデルタ・ソクチャン省フータン村を起点に、そこから派生する家族や商取引関係、宗教的紐帯の拡がるルートを辿り、その結節点となる都市や市場町で口述史料、文献史料を収集する。ルートは、以下 2 つである。

(1)メコン河流域ルート:メコン河の支流バサック河に沿ってベトナム国境の町チャウドックを抜け、カンボジアの首都プノンペン、トンレーサップ湖を経由し、タイのスリン県に抜けるルート。

(2)シャム湾沿岸海域ルート:シャム湾沿岸に沿って、ベトナムの国境の町ハーティエンを経由し、カンボジア沿岸の町コンボンソムから、船でタイ沿岸部に辿り着くルート。

メコン河流域ルートとシャム湾沿岸海域ルートという 2 つの経路を中軸に据え、そのルート沿いに点在する寺院や市場という空間で生成されてきた同郷コミュニティを訪れ、多様な民族意識や宗教観を持つ人々に聞き取り調査を行い、東南アジア大陸部を横断

する広域的な人間関係の実態を描き出そうとした。本研究を通じて、2 つのルートにおいて人々に利用されてきた広域的な人間関係が、20 世紀の戦争や社会主義建設による動乱のなかで一時的に活性化した協力関係であったのか、あるいは 19 世紀半ばまでに河川や海域で築かれていた多様な人々の紐帯が脈々と続いてきたものなのか、そしてそれは、20 世紀の動乱を経て、現在までいかに変貌を遂げてきたのかを明らかにすることができる考えた。

4. 研究成果

研究活動スタート支援の助成を受け、以下の研究を発表した。

(1) 単著論文 2015 「脱植民地化過程のメコンデルタにおけるクメール人の言語・仏教・帰属」、「アジア・アフリカ地域研究」

植民地統治が終焉した 1954 年以降、メコンデルタのソクチャン省フータン社の人々が、南ベトナムとカンボジアという 2 つの国家といかに関わらざるを得なくなったのかを考察した。両地域が統合されていた植民地期に、フータン社の人々は、地域社会の寺院でクメール語と上座仏教を学び、そこで培われた人的ネットワークを頼ってメコンデルタからカンボジアへ移動する傾向があり、それが、彼らが持つ両地域を跨ぐ広域的な空間認識の生成に繋がった。一方、脱植民地化直後の南ベトナムにおいて、国籍付与、クメール語教育制度の廃止、上座仏教組織の再編等が実施されると、人々の間で不満が高まり、本論文では、それが反政府活動(後のベトナム戦争の拡大の一背景となる)につながったことについて論じた。

1950 年代後半まで、ソクチャン省の住民達は、上座仏教寺院におけるパーリ語・クメール語教育を介して、またプノンペンやアンコールワット(シエムリアップ州)という文化、宗教の中心地への巡礼や修行という行為を通じて、カンボジアと関わっていた。この上座仏教やクメール語に基づいていた世界のなかで生き、それに利益や価値を見出していた住民は、「クメール人」という民族的なカテゴリーに限定されず、華人や混血住民も多く含まれていた。

このように 1950 年代後半のメコンデルタにはカンボジアとのつながりを維持する曖昧な立場の住民が数多くいたが、南ベトナムの政治的統合を目指したジエム政権は、住民達の帰属を明確化させて彼らが隣国の影響を受けないように国籍別、民族別に分類するようになった。カンボジアと結びついていた公立学校のクメール語教育課程の廃止や、従来のクメール人組織、

上座仏教組織の再編を図った。ジエムは、政権の意向に近い一部の上座仏教組織を承認するなど、彼なりの懐柔策を模索してはいたが、対立するカンボジアのシハヌーク政権の宣伝工作や北ベトナムからの共産主義の浸透を警戒し、国内において国外とつながる要素を極力排除しようとしたため、カンボジアとの関わりに利益や価値を見出していたソクチャン省の上座仏教界や住民との間で対立を深めていった。この対立を背景に、反ジエムを掲げていた解放民族戦線などの政治組織に協力・参加する住民も現れ始めた。

これまでの研究は、20世紀後半において南ベトナム政府への反政府活動が広まっていった背景を理解するにあたり、反政府的な政治組織の理念と個々の住民達の考えが、一枚岩であったかのように理解してきた。しかし、本論では、誕生してまもない南ベトナムとカンボジアという2つの国家権力、住民の利害を代弁しようとする様々な政治・宗教組織、そして個々の住民達の間で、複雑な対立、協力関係が成立していたことを明らかにした。

- (2) **単著論文** 2016. "The Concept of Lai (Mixed Blood) in Mekong Delta: A Reconsideration of the Ethnic Categories in Vietnam[メコンデルタにおける「混血」という概念]." In Giang day, Nghien cuu Viet Nam hoc va Tieng Viet: Nhung Van de Ly thuyet va Thuc tien[ベトナム学とベトナム語の教育と研究 理論と実践の問題]

ベトナム南部メコンデルタのフータン社において、クメール人、華人、ベトナム人が混住する、混血的な多民族社会の状況について論じた。フータン社では、第1に登録上の民族籍と本人の民族帰属認識にしばしば齟齬があること、第2に登録上の民族は本人や親の意図によって選択されていること、第3に言語や宗教は必ずしも民族的帰属を決める条件になっていないこと、第4に住民の民族的帰属については時に本人の家族さえ明確に認知していないこと、第5に、地域住民によるベトナム人と華人の混同が見受けられることを指摘した。その一方で、フータン社の住民は、多重かつ変動的な民族帰属認識を抱えつつ「純粹」、「混血」という概念や職業、宗教を基準とした民族分類を用い、自己と他者との差異化を日常的に行っていることも論じた。

- (3) **単著ブックレット** 2016 『戦争と難民—メコンデルタ多民族社会のオーラル・ヒストリー—』

メコンデルタのソクチャン省フータン

社において、19世紀末から21世紀までという長期的な時間軸のなかで生じてきた広域的な移動と地域社会の再編をめぐる人々の語りを分析した。それら語りをもとに、経済的困窮や民族間・国民国家間の紛争を背景に、いかに国境を越えた範囲での人間の移動が起こり、民族や言語、宗教の異なる人々の接触の機会が生まれたのか、また新たな社会関係がどのように築き上げられ、地域社会が再編されてゆくのかを論じた。

最初に、フータン社の地域的特徴を説明した。クメール人、華人、ベトナム人の混住が顕著に進んできた同社では、民族的な混濁を意味する「混血」という概念が存在し、日常レベルでは、民族の可変性や曖昧性、重層性が許容されていた。次に、このような地域社会を生成した、経済移民、難民の受け入れの歴史をたどった。植民地時代の輸出米生産の拡大を背景に、国境を越えて移住してきた貧しき華人と在来者のクメール人の通婚が進んでいたこと、その後勃発したインドシナ戦争(1946-1954)で、クメール人とベトナム人の対立が顕在化し、紛争地から避難民が流入してきたことを述べた。続いて、インドシナ難民の問題を、フータン社で生じていた人口の流出入という観点から考察した。1970年代後半のベトナムとカンボジア、中国の紛争と、社会主義政策の混乱を背景に、華人とクメール人への迫害、警戒が強まり、華人精米業者らが国外へ脱出していったこと、紛争下のベトナム・カンボジア国境にいたクメール人住民のフータン社への疎開が政府によって進められていたことを指摘した。最後に、ベトナム・カンボジア国境の人、モノ、情報の越境の現状について述べた。1970年代後半以降の経済的困窮などによってカンボジアへ移住したものの、近年では時折帰郷する人々の来歴や、日常的にカンボジアから流入するモノやメディアを受容してきた住民と、それを制御しようとする政府との間で生じている駆け引きについて具体的に紹介した。

結論では、長期的な戦争を経験し、国民国家の存立が不安定であったメコンデルタにおいて、多民族社会に流入してきた、あるいはそこから立ち去って行った経済困窮者や避難民達が、移住先で新たな家族を形成し、生活の基盤を築き上げ、また故郷との関係も維持し続けるなど、その立場が変遷していったことを指摘した。さらには、メコンデルタでは民族間対立が度々生じ、対立に起因する人の移動が20世紀に繰り返された結果、異なる宗教・民族の接触が生じ、複数のアイデンティティが併存する混血的な多民族社会が生成されてきたことを論じた。

(4) Unpublished Paper[未刊行論文], “Local Politics in National Border-Crossing between Southern Vietnam and Cambodia: Mobility in the Mekong Delta after the Cold War[ベトナム南部とカンボジアの国境の越境をめぐる政治 蓮井戦後のメコンデルタにおける移動],” In 2016 Annual Conference on Southeast Asian Studies in Taiwan (台湾東南アジア学会年次大会)

冷戦終結以降、地域社会と国家の関係がどう変遷してきたのか、越境移動という観点から論じた。1970年代後半にベトナムがカンボジアに侵攻してからの10年間、この2つの国家が国際社会からの孤立、戦争、社会主義政策に起因する動乱を経験し、数多くの国外脱出者を生み出したことは周知のとおりである。一方で、この侵攻を機に、多数の人々がベトナム南部メコンデルタからカンボジアへ非合法的な手段で越境し始めたことはあまり知られていない。ベトナム軍がポル・ポト政権をプノンペンから駆逐して以降、社会主義下のベトナムからカンボジアを経由して国外へ逃れる難民の非合法ルートが生成された。

越境者の数は、とりわけ冷戦終結後の、メコンデルタ農村の貧困と UNTAC 下プノンペンの活況を背景に急増した。1980年代後半におけるベトナム、カンボジアの市場経済化と政治変動に呼応して、カンボジアへの越境者は難民から経済移民へと転換していったのである。その背景には、メコンデルタ農村において、社会主義経済から市場経済への移行過程で、新たな混乱が生じていたことがあった。地方政府による農地返還事業は、住民間の軋轢を招き、社会主義改造下で導入された税制や労働義務は、ドイモイ後もしばらく継続され、経済的弱者が農地を手放す要因を生み出していた。一方で、ベトナム軍撤退後のカンボジアでは、和平協定と国連の介入により政治体制が大きく変動していた。生活に困窮したメコンデルタの人々のなかには、従来、難民らによって生成されていた非合法ルートを利用して国境を越え、UNTAC 下でドルが普及し始めたプノンペンへ出稼ぎに向かう者が1990年代前半に一時的に増加した。

しかしながら、1990年代後半以降にベトナムが国際社会への復帰と経済成長を着実に進めてゆくなかで、越境者のなかには度々ベトナム側に帰郷する者が現れ始める。この新たな傾向を受け、ベトナム政府は近年、越境者の移動制限や国籍特定など、国境統治に本腰を入れつつある。しかしながら、越境者の管理強化によって、これまで政治経済的混乱のなかで棚上げにされてきたメコンデルタの民

族や宗教に関する諸問題が、再び顕在化している。本発表では、人々の越境移動という観点から、冷戦終結以降のメコンデルタにおける地域社会と国家の関係が、いかに変遷してきたのかについて考察する。本発表を通じて、冷戦終結後の越境者の増加によって、ベトナム側の地域社会とカンボジア社会の距離が急速に縮まってきたことを明らかにする。そして、そのことが、近年、国境管理を強化しつつある地方政府と住民の間で時折生じる軋轢の背景になっていることを指摘する。

同論文は、2016年9月に行われた台湾東南アジア学会で最優秀論文賞を受賞したものである。現在シンガポールの東南アジア研究所(ICSEAS)の学術雑誌 Sojourn の編集者から招待を受け、投稿論文にするために編集集中。

まとめ

以上、研究活動スタート支援の助成を通じて、多くの研究業績を得られたものの、研究開始当初の背景や目的、方法で掲げられたバサック河流域ルートやシャム湾沿岸ルートの実態について、1年半という短期間のなかで十分に調査・研究することができなかった。この残された課題については、平成29年度から採択された科学研究費補助金「若手B」の研究課題「近現代ベトナムとカンボジアに跨る政治的辺境ウォーター・フロンティア」において、継続する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

下條尚志、「脱植民地化過程のメコンデルタにおけるクメール人の言語・仏教・帰属」、『アジア・アフリカ地域研究』第15巻1号、pp. 20-48、2015年(査読有)

Shimojo, Hisashi, “The Concept of Lai (Mixed Blood) in Mekong Delta: A Reconsideration of the Ethnic Categories in Vietnam.” In Giang day, Nghien cuu Viet Nam hoc va Tieng Viet: Nhung Van de Ly thuyet va Thuc tien [Vietnamese Studies: The Issues of Methodology and Practicality] ed. Vo Van Sen. Ho Chi Minh City: Nha Xuat ban Dai hoc Quoc gia TP.HCM [Vietnam National University – Ho Chi Minh City Press], pp. 626-634, January 2016(査読無)

[学会発表](計3件)

Shimojo Hisashi, “The Concept of Lai (Mixed Blood) in the Vietnamese Mekong Delta: Case Studies of P Village in Soc Trang Province,” In Vietnamese – Japanese Students’ Scientific Exchange Meeting,

Kyoto University, Japan, October 31 2015(口頭、査読有)

Shimojo Hisashi, "The Concept of Lai (Mixed Blood) in Mekong Delta: Reconsideration of the Ethnic Categories in Vietnam," In International Conference with the Topic, "Vietnamese Studies: The Issues of Methodology and Practicality," Binh Chau, Ba Ria-Vung Tau, Vietnam, January 17 2016(口頭、査読有)

Shimojo Hisashi, "Local Politics in National Border-Crossing between Southern Vietnam and Cambodia: Mobility in the Mekong Delta after the Cold War," In 2016 Annual Conference on Southeast Asian Studies in Taiwan (ACSEAST), "The Politics of Transformation in Southeast Asia: Towards A People-Centered Agenda," National Chengchi University, Taiwan, September 22 2016(口頭、査読有)

下條尚志, 「ベトナムーカンボジア国境をめぐるローカルな政治ー冷戦終結後メコンデルタの人々の越境移動」『東南アジア学会第96回研究大会』、慶應義塾大学、2016年12月3日(口頭、査読有)

〔図書〕(計1件)

下條尚志, 『戦争と難民ーメコンデルタ多民族社会のオーラル・ヒストリー』、風響社、pp. 68、2016年(査読無)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

(1) 「【受賞】下條尚志(研究員)が2016年台湾・東南アジア学会全国大会で最優秀論文賞を受賞しました。」
<http://www.cseas.kyoto-u.ac.jp/2016/10/20161003/>

(2) 「京都大学東南アジア研究所 下條尚志(しもじょう ひさし)」
http://www.cseas.kyoto-u.ac.jp/about/staff_al/division2/shimojyo/

6. 研究組織

(1) 研究代表者

下條 尚志 (SHIMOJO, Hisashi)
京都大学東南アジア地域研究研究所
機関研究員
研究者番号：50762267

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()